

情報・システム研究機構長の業務執行状況の確認結果

情報・システム研究機構長の業務執行状況の確認規則第3条に基づき、令和2年度の機構長の業績について、業務執行状況の確認を実施しましたので、その結果を報告いたします。

1. 実施方法

「令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書」及び国立大学法人評価委員会による評価結果並びに機構長との意見交換及び監事からの意見等をもとに、業務執行状況の確認を行った。

2. 対象期間

令和2年4月1日～令和3年3月31日

3. 確認結果

- 特筆すべき状況を生み出している
- 順調に進めている
- おおむね順調に進めている
- やや遅れている
- 重大な改善事項がある

4. 理由

年度計画の記載事項全てにおいて「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められる。新型コロナウイルス感染症への対応に関しても機動的に取り組み、「COVID-19 対応研究」の緊急実施をはじめ、国内外に散在する COVID-19 に関する研究データをポータルとして公開するなど成果を出している。

管理運営面では、分野も来歴も異なる4研究所と1施設を、丁寧な対話と情報共有によって1つにまとめており、機構のミッションをしっかりと推進している。また、機構の枠組みを超えた異分野融合の取組など、4機構法人の連携強化の推進に寄与している。なお、業務のスピードアップや効率化との両立及び外部資金獲得の取組について引き続き期待するとともに、一部の法令遵守において、改善が望まれる。

コロナ禍において、様々な制約がある状況での業務執行であったことを踏まえると、更なる改革を進められる可能性もあり、今後の取組みにも期待したい。

これらを総合的に勘案し、令和2年度の機構長の業務執行状況は、「順調に進めている」と評価した。